

全学共通科目

教育職員養成課程

全学共通科目の概要について —目標を立て、あなたに合った学び方を—

全学共通科目とは

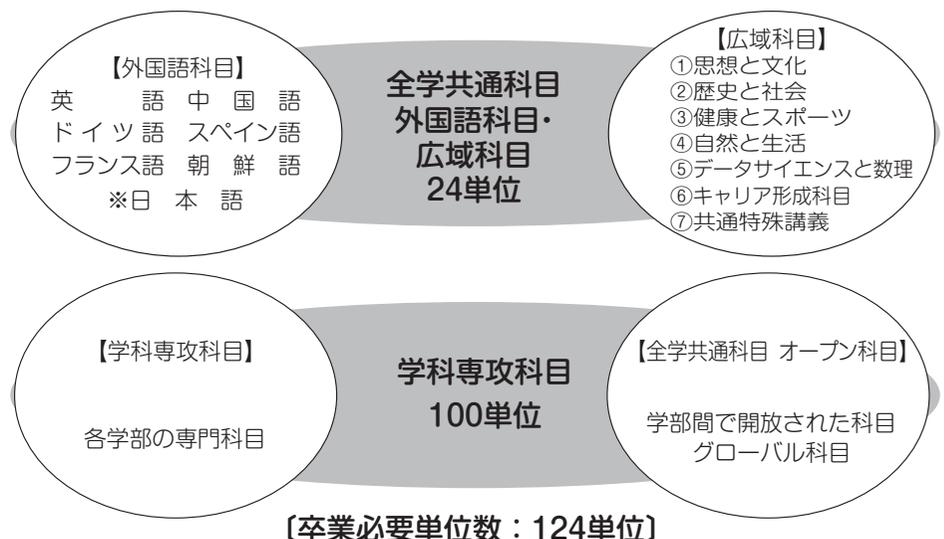
現代の世界では、科学・技術が発達する一方で地球温暖化や世界的な不況、社会的格差の拡大、生命倫理に関わる問題などが発生しています。また人間関係が希薄になり、効率だけが優先されて精神の豊かさが失われつつあるという問題点も指摘されています。みなさんがこうした社会状況の改善に貢献し、充実した社会生活を築いていくためには、大学で何を学べばよいのでしょうか。

みなさんにはそれぞれに学びたい分野があるかもしれません。あるいは、まだ何を勉強したらいいのかわからない人もいるでしょう。いずれにしても大切なことは、みなさんのこれからの人生の基礎となる人間力を引き上げ、どんな課題に直面しても、正しく解決する道筋を冷静に判断して対応する能力を身につけることです。特に経済状況や雇用環境が大きく変化する現在、新たに必要となる知識を自分で習得する力を養うことがとても大事です。

そのためには、学生時代に幅広い分野に関心を向け、物事に対する柔軟で多様な見方・考え方を育てることが必要です。これまで知らなかった分野に、あなたの心を興奮させる新しい発見があるかもしれません。あるいは、あなたの考え方を大きく転換させる事実が隠されているかもしれません。それらを発見し、知ることは、専攻した分野の理解を広げ、深めるためにも必要なことなのです。

そこで本学では、学部の専門教育とは別に、専門分野の枠を超えて、人間として生きていくための基盤となる力を養い、さまざまな角度から物事を見て、総合的に考える力や豊かな人間性を養うことを目的に、学部を超えて共通に学ぶ幅広い分野の科目を設置しています。

全学共通科目は、みなさんの成長に必要な基礎的な科目と、専門分野を超える幅広い種類の科目を備えています。卒業までの4年間にみなさんの目標に合わせて計画的に、そして人としての成長と関心の変化に応じて意欲的に、全学共通科目を履修してください。



※全学共通科目の余剰単位は、学科専攻科目の単位として学科が定めた上限まで認められます（48ページ参照）。
※経営学部第2部は、全科目自由選択制のため上記の表とは異なります。詳しくは、学科のページをごらんください。
※日本語は、学部国際留学生と交換国際留学生を対象とします。

● 全学共通科目

必修外国語科目

政治・経済・文化のすべての領域で国際的なつながりと交流が進み、日常の社会生活においても国際的な視野と異文化への理解、コミュニケーション力が求められるようになった現在、人とつながるための外国語に関する知識と能力はいっそう大切になってきています。

大阪経済大学では、複数の外国語を学び、語学に関する素養と理解を広げ深めることと、実用的な語学力を育てることを重視し、外国語に対する関心と意欲に応じた効果的な授業を行います。外国語科目として本学では、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の合計6カ国語と、国際留学生を対象にした日本語を開講しています。



【英語クラスは習熟度に応じて編成】

英語を選択した学生は、クラスが習熟度に応じて編成されます。レベルにあった英語のレッスンを受け、学習効果を高めることができます。より上のクラスをめざしましょう。

履修方法について

必修外国語科目は、各自が入学前に選択した科目を履修します。

① 配当年次

必修外国語科目は、それぞれの配当年次で履修しなければなりません

② 卒業必要単位数

卒業必要単位数は学部により異なります。注意してください。
各学部の配当年次は次頁以降のとおりです。

経済学部

- 6カ国語から2カ国語を選択し、履修します。

第1外国語(外国語Ⅰa～Ⅳb 8単位)	合計12単位
第2外国語(外国語Ⅰa～Ⅱb 4単位)	

〈例〉第1外国語に英語、第2外国語にドイツ語を選択した場合

		第1外国語	第2外国語
1年次配当	春学期	英語Ⅰa 英語Ⅰb	ドイツ語Ⅰa ドイツ語Ⅰb
	秋学期	英語Ⅱa 英語Ⅱb	ドイツ語Ⅱa ドイツ語Ⅱb
2年次配当	春学期	英語Ⅲa 英語Ⅲb	
	秋学期	英語Ⅳa 英語Ⅳb	

※12単位を超えて修得した単位は、広域科目に振り替えることができます。

※学部国際留学生は日本語を12単位履修・修得しなければなりません。

【第1外国語の選択】

「外国語Ⅲ～Ⅳ」では、1年次に選択した外国語のうちいずれか1つを第1外国語として選択し履修しなければなりません。詳細については、1年次秋学期頃にKVCなどでお知らせします。

経営学部第1部、情報社会学部、人間科学部

- 6カ国語から1カ国語または2カ国語を選択し、履修します。

【1カ国語を選択した場合】

第1外国語(外国語Ⅰa～Ⅳb 8単位)	合計8単位
---------------------	-------

〈例〉英語を選択した場合

		第1外国語
1年次配当	春学期	英語Ⅰa 英語Ⅰb
	秋学期	英語Ⅱa 英語Ⅱb
2年次配当	春学期	英語Ⅲa 英語Ⅲb
	秋学期	英語Ⅳa 英語Ⅳb

※8単位を超えて修得した単位は、広域科目の単位に振り替えることができます。

※学部国際留学生は日本語を履修・修得しなければなりません。

【2カ国語を選択した場合】

第1外国語 (外国語Ⅰa～Ⅱb 4単位)	合計8単位
第2外国語 (外国語Ⅰa～Ⅱb 4単位)	

〈例〉第1外国語に英語、第2外国語にドイツ語を選択した場合

		第1外国語	第2外国語
1年次配当	春学期	英語Ⅰa	ドイツ語Ⅰa
		英語Ⅰb	ドイツ語Ⅰb
	秋学期	英語Ⅱa	ドイツ語Ⅱa
		英語Ⅱb	ドイツ語Ⅱb

※8単位を超えて修得した単位は、広域科目の単位に振り替えることができます。

※学部国際留学生は日本語を履修・修得しなければなりません。

③ クラス指定

外国語科目は、一部の科目を除き複数コマ開講されます。時間割表のクラス表記にしたがって履修してください。(英語は習熟度別クラス)

※クラス指定科目と履修を希望する科目が同時限にある場合は、クラス指定科目を優先してください。他の必修科目も同様です。

④ 再履修

配当学期で修得できなかった場合は、次学期に必ず再履修しなければなりません。例えば、「英語Ⅰa」「英語Ⅱb」が不合格だったとき、それぞれ「英語Ⅰa再」「英語Ⅱb再」を次学期に履修します。再履修クラスは複数配置されるため、9月および3月の成績発表時に各自が受講するクラスを選択することができます。

⑤ 外国語科目の変更

外国語科目を変更するには、履修登録期間中に教務部までご相談ください。なお、変更する場合は以下の点に注意してください。安易な変更は卒業に影響することがありますので、よく考えましょう。

1. 2カ国語が同一の外国語となる変更はできません。
2. 変更後に新たに選択した外国語は、「外国語Ⅰ」から履修することになります。
履修クラスは指定されたクラスとなります。

選択外国語科目

みなさんの語学力を引き上げ、外国語をもっと学ぶために、語学漬けとなる語学研修、TOEICなどの語学の資格に挑戦する科目、コミュニケーション力を高めるための科目などを用意しています。この中にあなたのレベルと目的にピッタリあう科目があるのではないのでしょうか。語学は集中して学ぶこと、継続して学ぶことがとても効果的です。外国語を修得し、諸外国を訪れ、異文化に触れることは、あなたの持っている世界をきっと広げてくれます。

◆語学研修

夏期または春期にカナダ、ニュージーランド、スペイン、台湾、フィリピンなどで実施されます。事前、事後に講義を行います。外国でしばらく過ごすことは、異文化体験の絶好の機会となります。

◆資格英語Ⅰ・Ⅱ

本学在籍中にTOEIC、TOEFL、実用英語技能検定において本学が定める基準を満たした者に対し、資格英語Ⅰ・Ⅱとして単位を認定します。申請期間や申請方法については、KVCなどでご確認ください。

資格基準	TOEIC	TOEFL (iBT)	英検	認定科目	単位数
A	500以上	52以上	2級	資格英語Ⅰ	2単位
B	600以上	62以上	準1級	資格英語Ⅰ・Ⅱ	4単位

※資格英語Ⅰを資格基準Aにより2単位修得し、次学期以降に資格基準Bを満たした場合は、資格英語Ⅱを2単位認定します。

※資格英語は履修最高単位数には含みません。

※英語Ⅰa～Ⅱbの代替科目ではありません。

履修方法について

① 配当年次

配当年次は科目により異なります。詳細は年次配当表を参照してください。

② 卒業必要単位数

選択外国語科目に卒業必要単位はありません。選択外国語科目で修得した単位は広域科目の単位に振り替えることができます。

広域科目

ーシラバスー
内容・評価方法・
テキスト等の詳細
が紹介されていま
す。
12ページ参照

広域科目は、人文科学・社会科学・自然科学の各分野から50科目以上が用意され、基礎的な入門科目から現代的な課題を追求する科目まで多くの科目があります。こんなにも多くの科目があると履修する科目を選ぶのに苦労しますね。また、科目名からはどんな内容を勉強するのが想像つかない科目もあります。そんなとき、シラバスを見るのもひとつの手ですが、いくつかヒントを用意しました。

最近の中学校・高校では必修科目が減り、選択科目が増えてきています。これは自分の好きなことを集中して学べる反面、あまり興味の持てなかった科目や受験科目でなかった分野については基礎的なことさえ理解できていないと自覚している人もけっこういるのではないのでしょうか。「～入門」とつく科目は、そんな人たちのためにそれぞれの分野の学問の基礎・基本を学んでもらおうという科目です。ですから、入門科目は、もちろん好きな分野の科目を選んでいいのですが、むしろ自分が苦手だと思ふ科目やこれまであまり興味が持てなかった科目を選んでください。特に、数学や統計学などは、経済学部や経営学部の専門科目を学ぶ上で必須の基礎的能力といえるものです。苦手と思っている人は履修したほうがいいでしょう。

「現代～」という言葉がついた科目は、今まさに解決が求められている現代的課題とそれぞれの学問がどのように切り結んでいるかという点を学びます。入門科目よりもう少し深く学びたい分野があればどんどん履修しましょう。ただし、特定の分野に偏らずに各分野にわたってできるだけバランスよく科目選択してください。

特定の分野を狭く深く追求していくとその道のプロになることができます。しかし、若いあなたたちは、まずできるだけ広範囲な分野を学ぶことが大切です。広域科目を活用して、人間としての幅を広げ、あなたの中の可能性を引き出してください。

「時間割の空き時間を埋めるため」とか「楽に単位が取れるというウワサを聞いて」というような理由で履修すると、後になって後悔することになるでしょう。

【広域科目】

広域科目は以下の7分野にて科目を設置しています。

- ①思想と文化
- ②歴史と社会
- ③健康とスポーツ
- ④自然と生活
- ⑤データサイエンスと数理
- ⑥キャリア形成科目
- ⑦共通特殊講義

履修方法について

① 配当年次

配当年次は科目により異なります。開講時期を考慮して、履修の計画を立てましょう。多くの入門科目は春学期に開講されます。「健康とスポーツ」分野の科目は、学期によって受講できる学年が異なります。詳細は時間割表を参照してください。

② 卒業必要単位数

卒業必要単位数および修得方法は学部により異なりますので注意してください。各学部の卒業必要単位数および修得方法は次頁のとおりです。

経済学部

- 広域科目の卒業に必要な単位数は12単位です。ただし、①思想と文化、②歴史と社会、③健康とスポーツ、④自然と生活の各分野から1科目2単位以上を修得しなければなりません。なお、②歴史と社会の「経済学入門」は必修科目です。

経営学部第1部

- 広域科目の卒業に必要な単位数は16単位です。ただし、①思想と文化、②歴史と社会、③健康とスポーツ、④自然と生活、⑥キャリア形成科目の各分野から2単位以上を修得しなければなりません。
- ③健康とスポーツは2単位を超えての履修・修得はできません。
- ⑥キャリア形成科目は4単位を上限とし、学科専攻科目への振替もできません。

情報社会学部

- 広域科目の卒業に必要な単位数は16単位です。ただし、①思想と文化、②歴史と社会、③健康とスポーツ、④自然と生活の各分野から1科目2単位以上を修得しなければなりません。

人間科学部

- 広域科目の卒業に必要な単位数は16単位です。ただし、①思想と文化、②歴史と社会、③健康とスポーツの各分野から2単位以上、⑥キャリア形成科目から4単位以上を修得しなければなりません。

③ 履修上の注意（健康とスポーツ）

健康とスポーツ科目の履修にあたっては、以下の点に注意してください。

1. 1セメスターに履修できる科目は1科目だけです。同時に2科目以上の履修はできません。
2. これらの科目は予備登録を行います。予備登録で合格した科目は、原則、削除することができません。ただし、定員に達しなかった科目は削除できます。
3. 科目名の後ろにあるサブタイトルが異なれば、別科目として履修・修得することができます。例：「スポーツ方法学（バレーボール）」、「スポーツ方法学（卓球）」に合格した場合は、2科目4単位を修得したことになります。
4. 「～方法学」の1回目の授業は体育館で行います。体操服、体育館シューズを忘れないようにしてください。
5. これらの科目は授業の特性上、出席が重視されます。規定の回数を超えて欠席した者の受講は認められないので注意してください。



「健康とスポーツ」分野に関する連絡事項は、KVCではなくすべて体育館の掲示板に行います。掲示の見落とし等により不利益を被らないよう注意してください。

オープン科目

各学部の専門科目を他学部の学生が履修することができるように4学部が協力して科目を提供しています。これらの中には、あなたがめざす職業に関係する科目があったり、あるいは教養を高め、深める科目があったり、また新しい関心に直結する科目を見つけることができるでしょう。あなたが所属する学科以外の専門科目を学んで、豊かな人間性を育ててみてはいかがでしょうか。それぞれの科目の詳細はシラバスを参照してください。

なお、各学部から提供される科目は毎年、変更されます。

グローバル科目

本学では「地域社会・企業社会・国際社会とつながり、多様な人々と協働できる人間力」の育成を教育目標の一つとして掲げています。国際社会で多様な人々と協働するためには日英両語での言語運用能力が必要不可欠です。グローバル科目はその能力を育成するための一つの場所で、授業はすべて英語で行われます。

学生の皆さんには、グローバル科目の履修をきっかけに国際社会で協働するというところに現実的な関心を持って欲しいと考えています。また、留学や語学研修に参加した学生達にとっても、英語のスキルを維持・向上させるための絶好の機会となると考えています。

【グローバル科目】英語による講義（2023年度）

分野	授業科目	単位	配当年次	提供学部
全 学 共 通 科 目	American Society and Culture ※	2	2・3・4	経済学部
	Contemporary Chinese Economy ※	2	2・3・4	経済学部
	International Communication	2	2・3・4	経済学部
	Japan-China Relations ※	2	2・3・4	経済学部
	Japanese Politics	2	2・3・4	経済学部
	Economics & the Global Economy ※	2	2・3・4	経済学部
	International Commercial Law	2	2・3・4	経営学部
	Introduction to Japanese Business	2	2・3・4	経営学部
	Financial Accounting	2	2・3・4	情報社会学部
	Accounting History	2	2・3・4	情報社会学部
	Comparative Civilizations	2	2・3・4	情報社会学部
Global History	2	2・3・4	情報社会学部	

グローバル科目は全学部生が受講可能ですが、自学部から提供された科目は学科専攻科目、他学部から提供された科目は、すべて全学共通科目【オープン科目】の単位となります。

また※印のグローバル科目は、経済学部の学科専攻科目では以下の科目名となります。

オープン科目（グローバル科目）	経済学部 学科専攻科目
American Society and Culture	経済学部特殊講義（American Society and Culture）
Contemporary Chinese Economy	経済学部特殊講義（Contemporary Chinese Economy）
Japan-China Relations	経済学部特殊講義（Japan-China Relations）
Economics & the Global Economy	経済学部特殊講義（Economics & the Global Economy）

全学共通科目の修得単位

各学科で定められた卒業必要単位数を満たしたうえで、全学共通科目【外国語科目・広域科目】の余剰の単位、および所属学科に配当されていない全学共通科目【オープン科目】の単位は、次のとおり各学部が指定する学科専攻科目の単位に振り替えることができます。

学部・学科	全学共通科目で修得した単位の扱い
経済学部 経済学科	学科専攻科目の選択科目（C）に20単位まで振り替えることができます。
経営学部 経営学科 ビジネス法学科	学科専攻科目の選択科目（C）に8単位まで振り替えることができます。
情報社会学部 情報社会学科	学科専攻科目の選択科目（C）に16単位まで振り替えることができます。
人間科学部 人間科学科	学科専攻科目の関連科目（C）に8単位まで振り替えることができます。

※経営学部第1部経営学科・ビジネス法学科：キャリア形成科目は4単位を上限とし、学科専攻科目への振替もできません。

経営学部第2部経営学科の全学共通科目の修得単位の取り扱いは次のとおりとなります。

学部・学科	全学共通科目で修得した単位の扱い
経営学部 第2部 経営学科	全学共通科目の外国語科目・広域科目は、第1部経営学科・ビジネス法学科の科目と合わせて60単位まで、卒業必要単位に含めることができます。

キャリア形成科目について

皆さんが大学を卒業するとき、どのような状況下においても柔軟な発想を持ち“社会に貢献する人材”となるために、本学では低年次から履修できるキャリア形成科目群を配置しています。大学4年間の中では、自分にはない多様な価値観を持った人たちとの出会いがあります。

卒業後の進路が明確である人も、明確でない人も、これらの科目群を通して、様々な人々と出会い、卒業後の進路だけでなく、将来の自分の姿を真剣に考えてみましょう。

■講義の概要

科目名	講義内容	配当年次
キャリアデザイン	大学4年間と社会に出てからの自分を方向付ける授業です。自分の強みや弱みを知り、社会にはどのような業界や仕事があるかを学び、自分を方向付けます。そして大学4年間で何を学び、何を体験し、どのような力をつけていくかを考えます。	1・2
プレゼンテーション入門	業界・企業研究をテーマに、グループワークを通じてプレゼンテーション力を高めることを目的としています。自分が知らない業界や企業を知ることで視野を広め、関心を強め、その魅力をわかりやすく他者に伝える技術を身に付けます。プレゼンテーションは社会で求められるスキルです。この機会にしっかり身に付けましょう。	2・3
論理的思考入門	論理思考を基礎とした課題解決力があれば、研究のベースになる思考力を磨くことができます。さらに、企業は論理的な課題解決能力を持つ人材を求めており、就職力の向上につながります。この授業では基礎的な論理思考からはじまり、企業や経営コンサルティング会社で使われている課題解決の手法までを学習します。	2・3・4
社会人基礎学力Ⅰ 社会人基礎学力Ⅱ	データサイエンスの基盤となる科目で、主には数学の基礎学力を高める授業です。数学はさまざまな学業に求められるだけでなく、就職活動での第一関門となる筆記試験でも、数学力が重視されます。この講義では、解法を学び、知識を身につけ、練習を繰り返します。そして、志望する企業の筆記試験を突破できることを目指します。基礎レベル、応用レベル、発展レベルと、学力の段階に合わせた履修選択が可能です。	(Ⅰ・Ⅱ) 1・2・3・4 (Ⅲ) 2・3・4
インターンシップ	インターンシップは、在学中に企業での就業体験を通じて、実社会の現場実態に触れ、職業人の考えや行動などの職業観を養い、大学で学んだ知識の生かし方や職業人としての在り方そのものについて考えることを目的としています。 本学では「事前講義」「実習（就業体験）」「事後講義」の3つで構成されており、単なる「職場見学」に終わるのではなく、各学生が事前に課題を設定し、目的意識を持って実習に参加し、その後の学生生活や進路選択に生かせるような体系的な学習が可能です。大学で学んだ専門知識を生かす、自分の強みや不足している部分を発見するなど、自分を見つめ直す良いチャンスです。早期から、自身の進路を具体的に考えていきましょう。 ※本科目は、履修最高単位数を超えて履修できる科目です。 ※春学期の正課科目として取り扱い、単位数は「2単位」です。 インターンシップのお問い合わせは、進路支援センターインターンシップ課（B館1階）まで	3

※全学共通科目の「キャリア形成科目」には、表の科目の他に「日本語表現演習（書き方）」「日本語表現演習（話し方）」があります。

※インターンシップを除く上記の科目について質問等がある場合は、担当講師宛にメールで確認してください。

または、教育・学習支援センター（E館1階）まで

資格について

教員養成課程を経て得られる教員免許状の資格のほか、単位を修得し、条件を満たすことで得られる資格には次のようなものがあります。

資格名	関連学部	備考
社会福祉主事任用資格	経済学部 経営学部 情報社会学部 人間科学部	E-20ページ参照 【厚生労働省WEBサイト： 社会福祉主事任用資格の取得方法】
社会調査士	情報社会学部	K-15ページ参照（情報社会学部） 【一般社団法人社会調査協会WEBサイト： 社会調査士とは】
公認心理師 (受験資格)	人間科学部	H-13ページ参照 【厚生労働省WEBサイト：公認心理師】
認定心理士	人間科学部	H-13ページ参照 【公益社団法人日本心理学会WEBサイト： 認定心理士の資格を取りたい方】
健康運動指導士 (受験資格)	人間科学部	H-16ページ参照 【公益財団法人健康・体力づくり事業財団WEBサイト： 健康運動指導士とは】
スポーツリーダー 公認スポーツ指導者 (科目免除【共通資格 I・II】)	人間科学部 スポーツ健康 コース卒業	H-17ページ参照 【公益財団法人日本スポーツ協会WEBサイト： スポーツ指導者】

※任用資格とは、公的機関の職員として採用されることで効力を発揮する資格です。

これらの資格の一部は、指定の学部・学科以外の学生でも取得可能です。ただし、所属学部・学科によっては卒業必要単位に含まれていない科目を履修する必要があります。上記の資格取得に関しての相談は教務部で行っています。

教育職員養成課程で学ぶこと



「教員免許状を取得しようかな？」と思っている人たちへ

教育職員養成課程（略して「教員養成課程」「教職課程」「教職」）は、文字どおり未来の教員養成を目的としています。でも、「自分が本当に教師になれるのだろうか」「なれたとしても、やっていけるのだろうか」と迷っている人が多いのではないのでしょうか。たしかに教員採用試験は、とても狭き門です。そして教師として採用されたあとも、とても多忙で、神経をすり減らすような厳しい職場環境が待っています。「いじめ」「不登校」問題あるいは、学力低下問題など、学校教育のあり方が根本的に問われている今、教師に対する批判も強く、それは気楽な職業ではありません。でもだからこそ、このような時代、学ぶ楽しさを子どもたちに伝え、子どもたちの心によりそえるような教師が強く求められているともいえます。教職課程で学ぶことによって、みなさんがそのような教師として育ててくれることを、私たちは願っています。

もちろん、迷うことは当然です。むしろ大学入学のはじめから「自分は教師になろう」「自分は教師に向いている」と思っている場合は、逆に、よく考え直した方がよいかもしれません。現在の学校教育は、教育基本法によって「人格の完成」を目的として成り立っています。それが公教育の理念なのです。ところが学校教育の実態は、みなさんの経験上おわかりのとおり、受験中心の競争メカニズムで動いているのです。私たちは、憲法・教育基本法の理念にもとづいて、教育改革をすすめるべきだと考えています。ですから、みなさんのこれまでの学校教育の経験だけにもとづいて教師になりたいというとき、それは誤解にもとづく誤った理想の教師像をイメージしている可能性があるのです。

また、教師になるつもりはないけれど、教員免許状は取得してみたいという方も大歓迎です。教師になるつもりはないのに免許状だけを取得するのはよくないことだという意見もありますが、それはまちがっています。「未来の市民」を育てる仕事は、教師だけの責任ではありません。子どもを育てる責任の第1は、親（保護者）がもちます。教師は、親の責任の一部を肩代わりし、社会全体の教育に対する願いを実現する立場にいるのです。また地域の住民も、子どもの教育（子育て）に関わっています。近年、幼い小学生を巻き込んだ悲惨な事件が目立ちます。子どもたちを守るためには、学校や保護者のみならず、地域の人々の協力が不可欠なのです。ですから、親（保護者）や地域に生きる人々が、教育についての識見をもち、教師と協力しあえるということは、子どもにとって大きなプラスになります。日本の教員養成制度は、この点も視野にいれているのです。これを開放制教師養成制度といいます。教師になる人だけが免許状を取得するのではなく、教師になるつもりのない人でも、免許状を取得できるという制度にしているのです。その趣旨は、教師になるつもりはなくても、将来、市民として、親（保護者）として、学校教育に理解をもって、子どもを中心に教師と協力しあえる人をたくさん育てよう、ということです。ですから、教員免許状だけほしいという人も、積極的に教員免許状取得をめざしてください。必ず将来、役に立つ場面があるでしょう。

教育職員免許状を取得するために

【取得可能な免許状】

学部・学科	中学校	高等学校
経済学部 経済学科	社会	地理歴史・公民・商業
経営学部 第1部 経営学科	社会	公民・商業
経営学部 ビジネス法学科		公民・商業
経営学部 第2部 経営学科		商業
情報社会学部 情報社会学科		情報・商業
人間科学部 人間科学科	社会・保健体育	公民・保健体育

※他学部他学科の科目を履修することで、所属する学科に認められていない免許状を取得することが可能です。

【小学校教諭一種免許状取得プログラム】

神戸親和大学との提携プログラムにより、小学校教諭一種免許状を取得することができます。

このプログラムは、本学学生が、2年次より神戸親和大学通信教育部の「協定大学科目等履修生」として所定の科目単位を修得することで、卒業と同時に小学校教員免許状取得を可能にするものです。

将来、小学校教諭を視野に入れて教員を目指す学生は、1年次の1月に開催するガイダンスに出席してください。

※本学において中学校・高等学校教員免許状を取得することを前提とし、小学校教員免許状のみの取得は認めません。

※本学の学費に加えて、神戸親和大学の通信教育課程履修に係る費用が必要です。

【免許取得の条件】

教育職員免許状取得のためには、次の条件が必要です。

- ①基礎資格をもつこと。
- ②教育職員免許法に基づいて設置された科目の単位を修得すること。

①の基礎資格は、「大学卒業」です。基礎資格があることは、幅広い教養を基礎にしつつ、専門教育を受けていることを意味します。従って幅広い教養科目の履修は卒業のためだけでなく、教職免許状取得のためにも必要な条件ということになります。

②の単位には、大きく2つの分類が対応します。ひとつは、免許の教科に対応する専門科目「教科及び教科の指導法に関する科目」、もうひとつは、教育職員に必要とされる専門科目「教育の基礎的理解に関する科目等」です。免許状教科に関わる専門科目の単位と、教育職員という専門職に関わる専門科目の両方をバランスよく修得することが大切です。